令和元年度　維持管理状況（12月1日～31日）　　＜工場設置計器の測定結果＞

清掃工場名等	焼却能力	炉番号	処分した一般廃棄物	ごみ焼却量	燃焼室ガス温度	集じん器入口ガス温度	排ガス中の一酸化炭素濃度（煙突）（O2 12%換算）	冷却設備及び排ガス処理設備に堆積したばいじんの除去
	t/日			t	℃	℃	ppm	
有　明	400	1号炉	可燃ごみ	2,863.97	934～1,133	172～178	1～47	ボイラ設備の除じんはボイラスートブロワ又はボイラ槌打装置により毎日実施する。ろ過式集じん器の除じんは空気式自動洗浄装置により毎日実施する。
		2号炉		5,568.40	1,090～1,258	169～176	0～52	
千　歳	600	1号炉		8,631.32	967～1,193	167～177	2～11	
江戸川	600	1号炉		1,985.46	889～959	170～171	0～5	
		2号炉		7,482.39	883～971	170～171	0～6	
墨　田	600	1号炉		13,890.39	998～1,148	164～170	0	
北	600	1号炉		14,927.29	970～1,099	168～173	1～17	
新江東	1,800	1号炉		15,398.27	931～1,143	166～170	0～2	
		2号炉		15,809.80	908～1,151	166～171	0～3	
		3号炉		10,719.72	916～1,124	165～169	0～3	
港	900	1号炉		7,769.04	1,034～1,315	166～169	0～47	
		2号炉		8,277.06	1,072～1,267	166～169	0～25	
		3号炉		5,445.04	1,059～1,301	165～168	0～85	
豊　島	400	1号炉		5,247.88	855～921	161～162	0～53	
		2号炉		2,997.16	868～919	159～161	0～47	
渋　谷	200	1号炉		3,958.96	934～1,036	143～163	0～128*①	
中　央	600	1号炉		8,250.16	945～1,078	148～152	0～22	
		2号炉		8,450.96	930～1,074	149～152	0～22	
板　橋	600	1号炉		6,918.12	995～1,221	161～164	0～17	
		2号炉		7,897.69	1,025～1,189	152～164	0～16	
多摩川	300	1号炉		3,773.56	893～1,011	155	0	
		2号炉		2,158.12	904～1,006	154～155	0～3	
足　立	700	1号炉		3,384.64	910～1,080	171～174	0～33	
		2号炉		7,666.30	933～1,096	172～173	0～32	
品　川	600	1号炉		8,237.21	930～1,114	169～171	0～24	
		2号炉		8,176.76	911～1,142	159～164	0～22	
葛　飾	500	1号炉		6,801.34	1,011～1,160	154～175	5～53	
		2号炉		2,867.27	955～1,125	157～164	1～49	
世田谷	300	1号炉		4,255.78	890～1,025	166～186	0～56	
		2号炉		4,279.11	899～992	165～185	0～48	
大田	600	1号炉		8,838.39	880～1,074	150～167	2～39	
		2号炉		8,838.24	913～1,068	148～165	5～24	
練馬	500	1号炉		7,366.27	847～1,034	155～167	1～105*②	
		2号炉		3,606.56	908～1,040	155～164	0～40	
杉並	600	1号炉		8,811.18	902～1,013	155～166	0～45	
		2号炉		8,844.24	917～1,020	153～164	0～35	

注：大田清掃工場 第一工場、中防灰溶融施設、破砕ごみ処理施設は休止しています。

測定値が維持管理計画値を超過した（下回った）理由（＊）

令和元年度　維持管理状況（12月1日～31日）＜工場設置計器の測定結果＞より

①　渋谷清掃工場　1号炉12月7日（土）11:00
排ガス中の一酸化炭素濃度が、煙突入口連続測定器で128ppmを記録した。
ごみ質変動により燃焼が不安定となり、一酸化炭素濃度が上昇した。
再燃バーナの運転、蒸発量設定値の変更等の手動介入により、燃焼状態が回復した。

②　練馬清掃工場　1号炉12月7日（土）24:00
排ガス中の一酸化炭素濃度が、一時間平均値で105ppmを記録した。
焼却炉内に圧密された古ごみが投入されたため、一時的に燃焼が過剰となり
炉内の酸素が不足し、一酸化炭素濃度が上昇した。
燃焼空気量の増量、ストーカの運転調整及びごみの撹拌により、燃焼状態が回復した。